

連載企画

身近な山や川をジオの視点から楽しむ!
筑波山地域ジオパーク探訪

問 ジオパーク室



前回に引き続き、広報つくばでは、主につくば市にあるジオサイトを中心に筑波山地域ジオパークの見どころを紹介します。

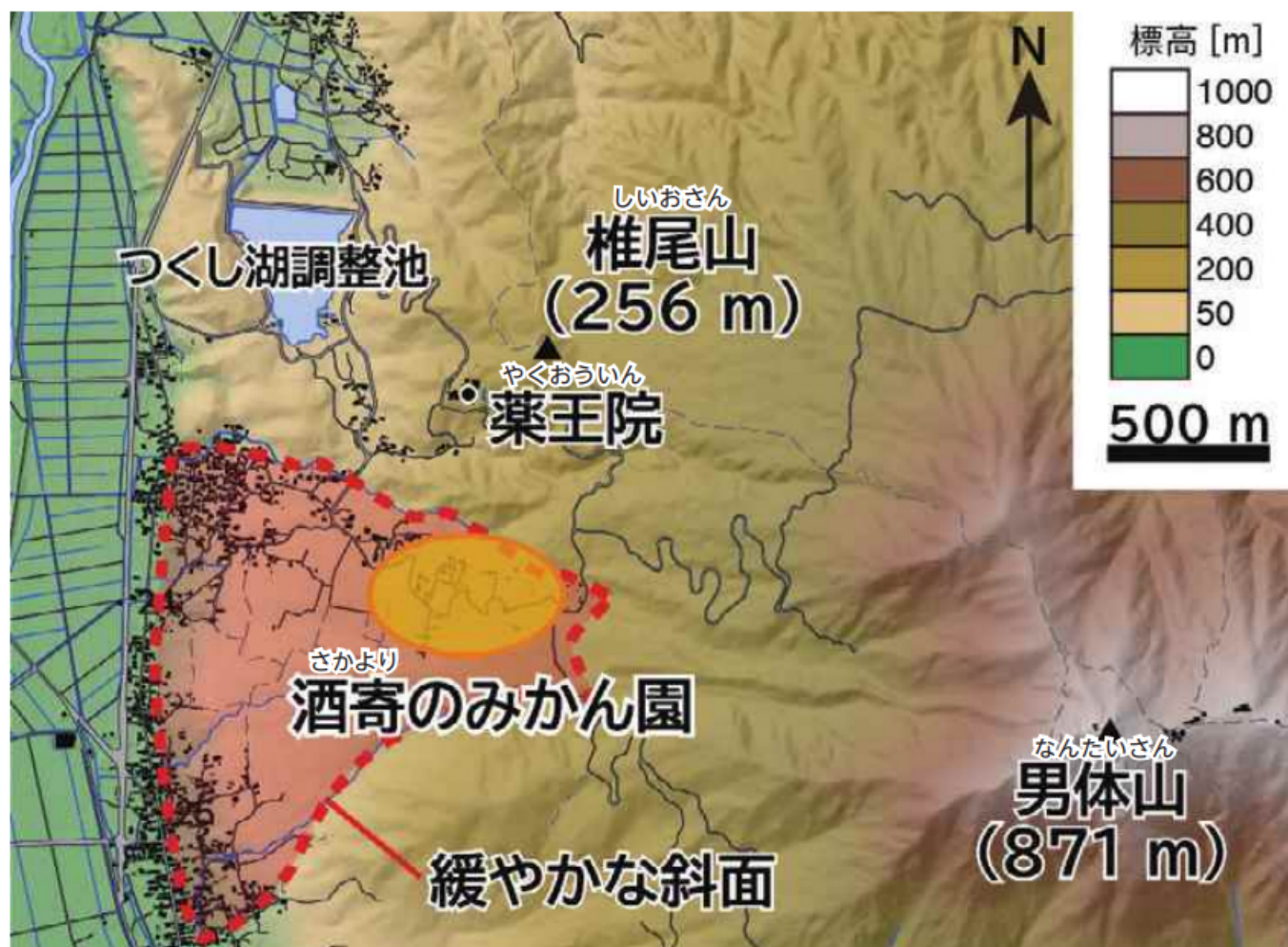
身近な山・川⑤ しいおさん さかより 椎尾山～酒寄・椎尾ジオサイト～

筑波山地域でみかんがとれる秘密

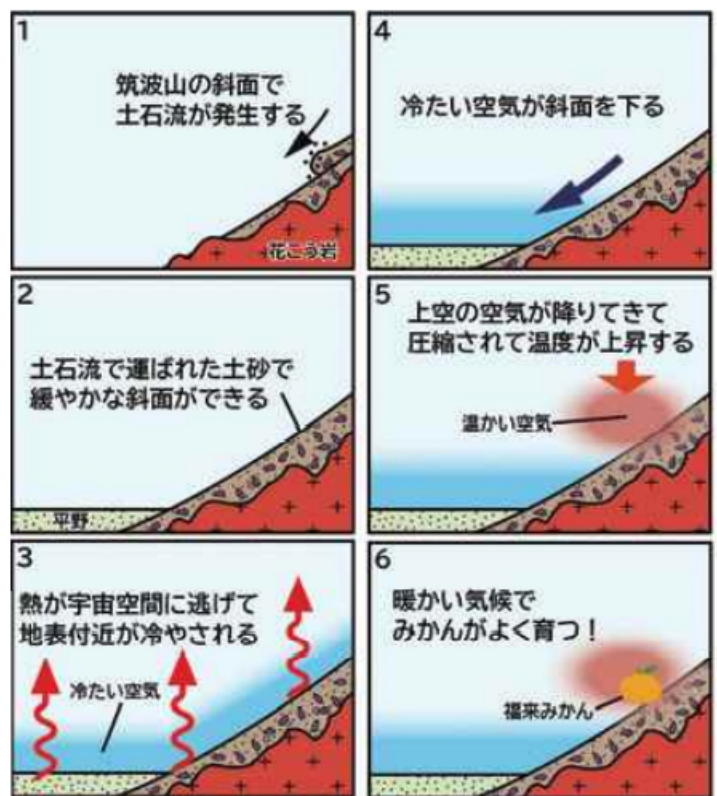
椎尾山は、筑波山の北西の斜面にある標高250mほどの小さな山です(図1)。山麓の桜川市酒寄地区では、標高200m付近でみかんの栽培が盛んです。特に、「福来みかん(図2)」と呼ばれる種類のみかんは、人の手による栽培が始まる前からこの地区に自生していました。みかんの栽培には暖かい地域が適しており、筑波山地域でも平地でのみかん栽培は多くありません。では、平地よりも標高が高く気温が低いはずの山の斜面で、なぜみかんが栽培されているのでしょうか。それには、酒寄地区の地形と不思議な気象現象が関わっています(図3)。

酒寄地区がある筑波山北西の緩やかな斜面は、土石流が運んだ土砂がたまってできています(図3の1、2)。冬によく晴れた日の夜、地表付近の熱は赤外線形で宇宙空間に逃げてしまい、地表付近はとて冷え込みます(図3の3)。平地であれば冷たい空気はその場にとどまりますが、酒寄地区は緩やかな斜面になっているため、冷たい空気が下って行ってしまいます(図3の4)。そこに上空から空気が降りてくると、空気は圧縮されて温度が上がります(図3の5)。このようにして、真冬の早朝でも0度を下回らない、みかんの栽培に適した気候になると考えられています(図3の6)。

筑波山地域の冬の味覚や気象現象も、この地域特有の地形・地質が関わっているのです!



▲図1 酒寄地区の地図
◀図2 福来みかん
▼図3 酒寄地区の気象現象



おすすめスポット

酒寄のみかん園

酒寄地区には、9つのみかん園があります(図4)。ここでは、酸味が強く良い香りがする福来みかと、コクがあり甘酸っぱい温州みかんが栽培されています。10月下旬から12月にかけては温州みかんのみかん狩りを楽しむことができます。また、福来みかんを購入できるみかん園もあります。この冬は、筑波山地域の冬の味覚、酒寄のみかんをお楽しみください!



▲図4 酒寄のみかん園